【サンプル】

がれき撤去作業リーダーのためのマニュアル

※ボランティア活動は、自己責任、自己完結、自由意志で参加されていることを前提にオリエンテーションを始める。

**【リーダーの役割】**

道具類

現場作業に必要な道具の数量を確保、事前に移動車両に積載します。

編成

個人・団体参加者全員の人数を把握し、随時確認します。

作業場所までの配車手配をします。

運転手の方への現場駐車場までの道順案内をします。

先導車を付ける場合、台数が増えて行列の分断、置き去りがでないように配慮します。

けが人等対応

けが人が出た場合はボランティアセンターに連絡します。程度によっては病院に搬送し、緊急を要する場合は救急車を呼びます。また軽度の場合も感染症などに備え、しっかりと除菌、ケアをしましょう。

がれき撤去

自治体の分別方法に合わせます。危険物やご遺体、ご遺骨、貴重品などが発見された場合は、警察署へ連絡します。

タイムスケジュール管理

休憩時間や昼休みにボランティアに号令をかけます。朝のオリエンテーション時にアナウンスしておきましょう。リーダーの号令忘れもあり得るので、各自申し合わせて休憩に入るようあらかじめ伝え、無理せず各自の体調やペースに合わせて休憩を適時取ってもらいましょう。

被災状況説明

わかる範囲で被災状況の説明とこれから行うボランティア作業の活動意義を説明します。犠牲者が出た場所や祭壇などがある場合は合掌冥福を促しましょう。

取材許可

現場で取材要請があった場合、ボランティアセンターの許可の有無を確認し、許可を取っていない場合は、直接交渉するよう要請します。また画面に映りたくない方の意思も尊重し、取材前にその旨ボランティアに確認しましょう。

緊急時避難場所説明

活動中に地震やその他の災害が起こった場合の案内をします。

例「○○県●●町ではいまだに余震が続いています。自身が発生し避難勧告が発令された場合は、作業を中断し、指定された避難場所へ避難してください」

**【ボランティアへの伝達事項】**

服装

帽子、マスク、ゴーグル、皮手袋、合羽、長靴（踏み抜き防止入り）または安全靴。作業環境によりヘルメット、ゴム手袋、長袖長ズボン着用、服装は任意で自己責任とします。

モラル・マナー

災害ボランティア活動中は休憩時間も含み原則写真撮影禁止です。被災者の方々にとってそのような行動は感情を逆なでしてしまうことになる場合があります。見つけた場合は厳重に注意します。被災者の方々の気持ちを最優先し絶対に慎むようにお願いします。活動報告用の写真を撮る場合は団体・個人に関わらず事前にリーダーに許可を取っていただきます。

がれき撤去

自治体の分別方法に合わせます。ガスボンベや薬品、危険物があった場合は手を触れずリーダーに報告してください。また作業中にご遺体、ご遺骨、貴重品など発見した場合も同様です。

取材許可

活動中に撮影や取材が来た場合は、リーダーに指示を仰いでください。

注意事項

釘の踏み抜き、井戸マンホールに蓋がないなど足元に注意すること。

毒虫や毒蛇などには注意しましょう。

人が密集する場所での作業では周りの人にも気を配りましょう。

休憩時間について

休憩時間や昼休みについてはリーダーが号令をかけます。しかし号令忘れもあり得るので、各自申し合わせて休憩に入ってもらうよう伝えましょう。また、無理せず各自の体調やペースに合わせて休憩を適時取ってください。